

Economic Trends

発表日:2019年11月8日(金)

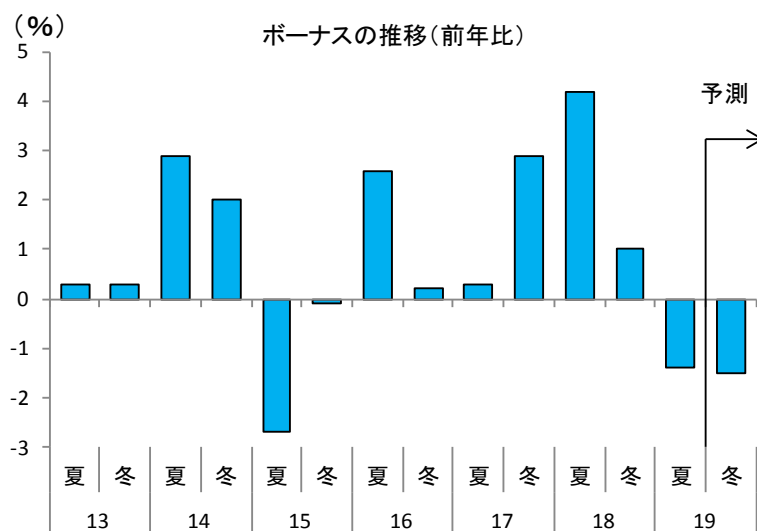
2019年・冬のボーナス予測

～前年比▲1.5%と、夏に続いての減少を予想～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

主席エコノミスト 新家 義貴(Tel:03-5221-4528)

- 民間企業の2019年冬のボーナス支給額を前年比▲1.5%と予想する。19年夏に続いて、2季連続の減少となるだろう（冬のボーナスとしては4年ぶりの減少）。
- 背景にあるのは企業業績の低迷だ。海外景気の減速に伴って輸出に頭打ち感が生じたことや原材料価格の上昇等を背景として、18年度下期の経常利益は前年比▲2.3%と減益に転じたことに加え、19年度上期についても輸出の悪化を主因として前年比▲9.2%と減益幅が拡大する計画となっている（日銀短観ベース）。ボーナスは業績に連動する傾向が強いことから、こうした業績悪化がボーナス抑制に直結するだろう。特に製造業においては、経常利益が18年度下期▲5.9%、19年度上期▲15.6%（計画）と業績悪化度合いが大きく、製造業を中心として冬のボーナスは悪化が見込まれる。
- 冬のボーナスの悪化が見込まれることは、今後の個人消費にとって痛手だ。10月から始まった消費増税による負担増にボーナス減少という重荷が加わることで、消費への逆風はさらに強まる。消費増税に備えて様々な対策が実行に移されていることから、家計の実質的な増税負担額は14年と比較してかなり小さく、消費増税発の景気失速は避けられるとみられるが、リスクは明らかに下振れである。



(出所) 厚生労働省「毎月勤労統計」

(注) 予測は第一生命経済研究所

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

